公益財団法人
ヤオコー子ども支援財団

2026 年 10 月 28 日

体験支援　現場レポート

当財団では 2025 年 9 月から、埼玉県下の生活にお困りの子育て世帯を対象にした「体験の機会の場の提供」を開始いたしました。 周りの環境によって子どもが得られる体験に格差が生じる体験格差。学校外での体験をほとんどできていない子どもも存在し、体験の有無が、子ども達の将来に私たちが想像する以上に深刻な影響を与えているのかもしれません。日常とは違う体験が、子ども達に自信や可能性を感じる機会となり、様々な体験活動を通して、生きていく上で重要な内面的な能力を育むことができるきっかけになるような、子ども達がワクワクするような体験提供を支援してまいります。

森と本とごちそうの旅 ～親子で見つける、小さな幸せ～

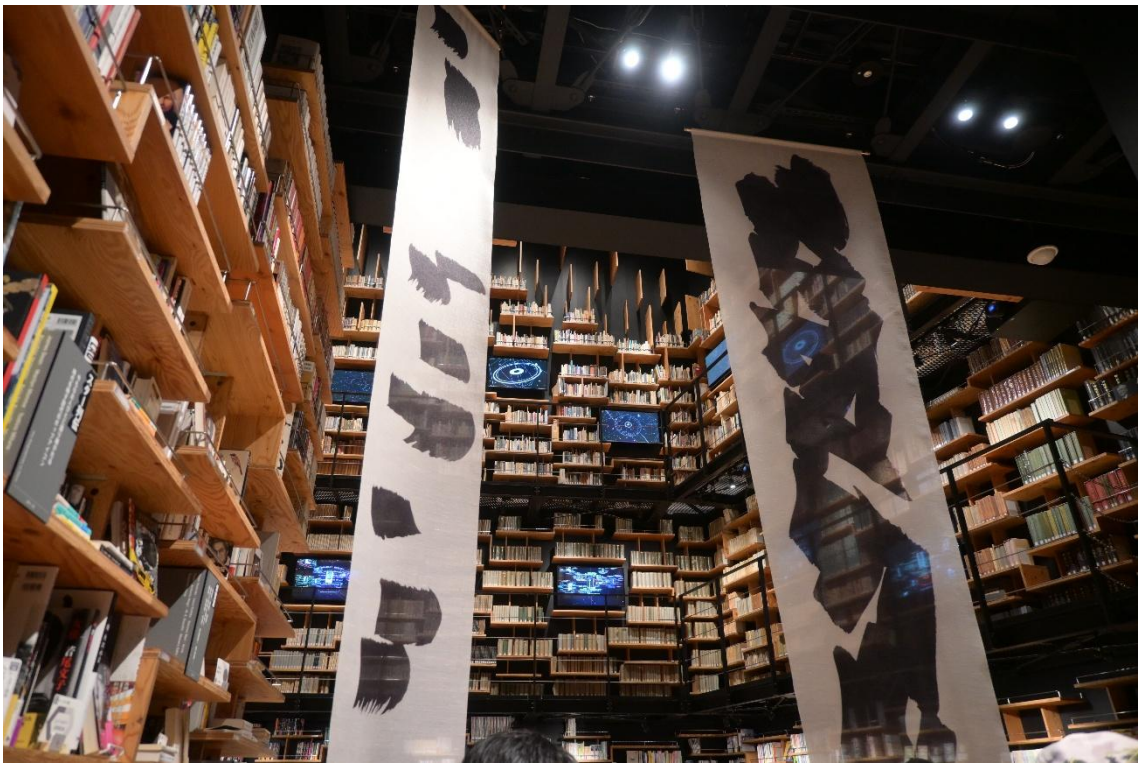
三富今昔村での森林セラピー

今回の舞台は、三芳町にある三富今昔村「くぬぎの森環境塾」。一般社団法人森とこころの研究所から 4 名の森林セラピストの皆さまのご指導のもと、約 2 時間の森林セラピーを体験しました。

当日はあいにくの雨となりましたが、室内でのワークを中心に、希望する子どもたちはカッパを着て竹林などを散策しました。

かつらの葉から漂う、キャラメルや綿菓子のような甘い香り。手で触れた木の感触。落ち葉や木の実、季節の花。五感を使って自然を感じることで、普段は見過ごしてしまうような小さな発見に出会いました。

葉っぱや木の実を使って、保護者の似顔絵づくりにも挑戦！子どもたちの自由な発想から、世界にひとつだけの作品が生まれました。完成した作品をみんなで鑑賞する「森の展覧会」では、互いの作品に拍手を送り合い、あたたかな雰囲気に包まれました。



角川武蔵野ミュージアムで、本とアートを楽しむ

午後は角川武蔵野ミュージアムへ。イブニングパスポートを利用し、親子それぞれが興味のある場所を巡りました。

幻想的なプロジェクションマッピングなど、いつもとは違う本やアートの世界を満喫。驚きや感動を共有しながら、親子で楽しい時間を過ごしました。

夕食は、レストランでビュッフェを楽しみました。おいしい料理を囲みながら、一日の思い出を振り返るひとときとなりました。

最後は、親子で「ありがとう」を交換

一日の締めくくりには、親から子へ、子から親へ、普段はなかなか言葉にできない感謝の気持ちをカードに書いて贈り合いました。

参加者からは、

「家族でイベントを過ごすことに大切さを再認識しました」

「葉っぱで顔を作るところの独創的な発想に感動しました」

「心に少し余裕が出来たようにも思います」といった声が寄せられました。

今回のアンケートでは、回答者５名全員が「とても満足」と回答。自然にふれ、親子で一緒に笑い、感動し、気持ちを伝え合う体験が、それぞれの心に残る一日となったことがうかがえます。

小さな幸せに気づくこと。親子で感動を分かち合うこと。そして、身近な人に「ありがとう」を伝えること。

当財団はこれからも、子どもたちの新たな発見や成長を応援するとともに、親子が心を通わせ、豊かな時間を過ごせる体験の機会を大切にしてまいります。